

### 次世代エネルギー『げんきたいそう』

毎週火木の晴れの日にはげんきたいそう。子どもたちの体操に合わせるかけ声はすごいです。園児数は以前より少なくなっているにもかかわらず、声のボリュームは同じかそれ以上に感じます。主観ですが彼らの声は大音量なのにいるさいどころか勢いしか感じません。むしろなんだかジーンときたりするくらいです。と同時に発電できるんじゃないかと思わせてくれます。太陽光エネルギーと同じく自然エネルギーとして活用できないかと真剣に考えてしまいます。もう昔から（と言っていいでしょう）やっているこのレトロチックなげんきたいそうが、今で言うインクルーシブ社会のイノベーションであり自然エネルギーのソリューション的な要素を持ったホットカルチャーだったなんて！脱帽ですね。

先生たちを含め、今日も元気いいなあくらいに、当事者たちには当たり前のように過ぎていることが、少し離れた位置から見てみると、すごくて、素敵で、成長していることを実感できます。自分のしていること、自分のしたいことの意味や理解度、つまり「わかること」が増えると「自信がつく」ということを彼らは実にわかりやすく見せてくれます。げんきたいそうの歌詞が素敵だからでもなく、曲がイカしてるからでもなく、たいそうの順番とそのかけ声を覚えられた「自分」がスゴイのです。だからあれだけ張り切ってできるのです。

自信はすぐに身につくものではなく「だんだん」です。わかっている年長が手本とばかりに声を出す、つられて年中が動きも声かけも身に付けていき確信に変わっていく、年少が見よう見まねでまねっこを始める。これらが勢いでありノリでもあり園の文化の継承となって根付いていることも「だんだん」を可能にする要素でもあります。

近くにいと意外とわからない、1歩といわず3歩以上さがってものごとを、子どもを見てみるとけっこう感心することって多いと思います。

そういえば、4月の誕生会のお楽しみ会でやった、らいおんたいそうも音量アガってきます。こんなことなら歌と振り付けもっとちゃんと考えとけばよかったと少し後悔しております。まあ、歌も振りもおいものたいそうのパクリだから、みんながすぐ「わかった」のだとは思ってますけど。

### 今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・園での生活のしかたや流れがわかり、できることは自分でやろうとする気持ちが見られる。
- ・保育者に親しみ、自分の要求や気持ちを表す。（ぼくも！わたしも！）
- ・道具や遊びを媒介にしながら仲間を知る。

4歳

- ・集団生活への抵抗がほぼなくなる。
- ・クラスの大部分の子どもを知っている。（名前やマーク、どんな遊びをしている）
- ・グループ単位の中で自由に会話ができる。

5歳

- ・集団の一員としての意識を持って行動できる。  
（その中で自分が何をすることがわかっている）
- ・互いの力量、よさなどが認め合える。
- ・どんなメンバーの中でも自分の要求が言える。